

公益社団法人 地盤工学会 関東支部

第 1 回 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会幹事会議事録

1. 日 時：平成 23 年 9 月 30 日（金）9：30～11：35
2. 場 所：地盤工学会地階 A 会議室
3. 出席者：龍岡委員長，安田副委員長，王寺幹事，大井幹事，後藤幹事，鈴木幹事，土倉幹事，長瀬幹事，丸山幹事，安原幹事，清木
4. 配付資料

資料 0 H23 年度第 1 回関東の地盤 DB 委員会幹事会議事次第

資料 1-1 H23 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会 WG 幹事構成案

資料 1-2 H23 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会 WG 希望一覧

資料 1-3 H23 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会 WG 一覧

資料 2-1 書籍関東の地盤購買層(8 月 31 日現在)

資料 2-2 データ収集 WG2 方針 20110930

資料 2-3 WG3 本文編集 WG 活動の方向性

資料 2-4 WG4 ソフトウェア WG 活動の方向性

資料 3-1 関東の地盤 収支(9 月 26 日現在)

資料 3-2 関東の地盤 初版第 1 刷価格設定

資料 3-3 関東の地盤 初版第 2 刷価格設定

資料 3-4 各 WG の活動スケジュールおよび予算一覧

資料 5-1 研究委員会 G 活動\_(110922)(関東地盤 DB 委員会)案

資料 5-2 評議員会資料-研究委員会 G(関東地盤 DB 委員会)案

資料 5-3 【地盤 DB】Geo-Kanto2011 DS 関東 DB 委員会

資料 6 委員からの意見

5. 議事次第

0) 委員長あいさつ

龍岡委員長の方から、本日の幹事会が、WG の構成、書籍「関東の地盤」の売り上げを研究活動費として、各 WG の活動費予算の区分と WG の活動スケジュールを調整する重要な幹事会であることが説明された。

1) 委員会名簿の確認および WG メンバーの確認 (資料 1-1～1-3)

- ・WG1(地盤モデル WG)は実働の方がメンバーとなることが好ましいと安田副委員長から意見が出された。
- ・WG2(データ収集・維持・管理 WG)に安田副委員長，大井幹事に委員として入って頂き，地盤情報に伴う重要な情報を頂く。
- ・WG2 から JR，JR TT，NEXCO にボーリングデータが提供して頂けるように働きかける。
- ・東日本大震災で液状化した地域で対策などの委員会を開かれた地域(浦安市，習志野市，千葉市など)などに多くの地盤情報があるので，提供して頂けるように働きかける。

- ・WG3(本文執筆 WG)では、関東全域の地盤、地震、液状化に関する内容が記述できる方を執筆者として探す。各都県は、都市の地盤(全国 70 都市の地盤と災害ハンドブック)の原稿を参考にして原稿を書く。なお、第四紀学を専門とする方が有望。
- ・WG4(ソフトウェア WG)：防災科研のソフトウェアを書籍のDBに入れることを念頭に置き、大井幹事に WG への参加をお願いする。また、JACIC のシステムとの関わりを持つ意味で、和田委員に WG1 から WG4 に移って頂くことをお願いする。

## 2) WG 活動方針およびスケジュール(資料 2-1～2-4)

WG1(地盤モデル WG)：安田副委員長が資料に基づいて説明した(資料 2-1)。

- ・振興調整費による地盤モデル化する活動を拡大する予定。横浜、千葉県などのモデル化が現在動いている。振興調整費による活動では、10 km×10 kmの領域のモデル化で 100 万円程度の予算であり、大学の学生謝金に充てられた。
- ・本委員会では学生のボランティアで各地のモデル化実施を検討する。地盤モデルをもとにした地震応答解析が誰でもできるようにする。無償ソフトについては、WG1 でできるところまで実施し、WG4 の手助けを得る。購入するものは、デジタルマップ(1:25000 の縮尺で 1000 円程度～10,000 円程度のデータ)である。地盤モデルを構築する作業の大半は大学で実施する。
- ・WG1 では、1 地域 10 万円×7 地域=70 万円程度の研究予算を見込む。

WG2(データ収集・維持・管理WG)：長瀬幹事が資料に基づいて説明した(資料 2-2)。

- ・書籍執筆のスケジュールとの関係が非常に大切である。本文執筆にデータ用いるのであれば、H24 の 3 月までに集めて、データの品質チェックを終えて、H24 年 12 月時点で取りまとめを行う。また、この時点のデータで地盤モデル化を行う。
- ・東京都からも XML データが提供して頂けるように働きかける。
- ・運輸の港湾局のデータは KuniJiban で公開された。佐々木委員(土木研究所)を通して提供をお願いする。また、NEXCO, JR などについてもデータ提供を早々にお願いする。
- ・UR も個別に担当者をあたる。
- ・WG2 では、データ収集するための交通費 30 万円を見積もる。この費用の支払いは近々発生する。
- ・データ提供を依頼する際、関東の地盤をまずは 6 冊(JR, NEXCO, 茨城県 2 冊, 横浜, 川崎)寄贈することになった。
- ・紙媒体を電子化するのは、資料を取りに行くだけでもお金がかかる。大井幹事に紙媒体の地盤情報を既に電子化されたデータの提供、データの電子化について相談する。

WG3(本文編集 WG)：清木が資料に基づいて説明した(資料 2-3)。

- ・本年度 12 月までに執筆方針、執筆者を決定する必要がある。
- ・書籍の印刷費は別枠の予算となる。
- ・木村幹事提案(資料 6)の Workshop を年明けころから県 G と連携して開催し、都市の地盤の原稿をもとに、執筆者を含めた意見交換を行うとともに、原稿執筆の雰囲気づくりを構築する。
- ・書籍の対象を一般と技術者の両方とするには差が大きすぎるなどとする委員からの意見(資料 6)が寄せられたことを紹介した。これをもとに議論して、書籍の購読層は、専門の大学生～初級技術者を対象とする。これに一般購読者向けの解説あるいは解説の付録をつける。

- ・WG3 では、執筆者会議の開催費 20 万円+Workshop 開催委代 20 万円=40 万円の予算を見込む。
- ・関東全域の執筆ができる方を探す。都市の地盤で全国の地質概要を執筆された小山氏が適任との推薦があった。

WG4(ソフトウェア WG) : 王寺幹事が資料をもとに説明した。書籍「関東の地盤」を出版した際に DVDDDB に格納したシステムのベースを利用して地盤情報閲覧システムに移行する。2012 年 10 月～2013 年 3 月の間で、データベース構築。100 万円+α(60 万円)=160 万円程度の予算を見込む。

- ・データ変換にお金がかかるかもしれない。またデータチェックを行う費用。(早くとも来年の夏に支払が発生)
- ・液状化の情報も DVD に入れることを検討する。とくに浦安の液状化に関連した地盤情報も入れることを検討する。このための Viewer の検討を WG4 が行うことになった。

3) 委員会活動予算についての検討

- ・70 万円(WG1)+30 万円(WG2)+40 万円(WG3)+160 万円(WG4)=300 万円を予算とする。
- ・これとは別に 50 万円を予備とする。
- ・データは、2012 年 12 月まで収集分を第 2 版として出すので、それ以降の収集分は、第 3 版に収める。

4) 委員会、幹事会、WG の開催について

- ・本年中に幹事会を実施し、各 WG の活動の方向を再度調整する。

5) 支部運営委員会、評議会、Geo-Kanto2011 における報告事項

- ・清木が資料に基づいて、10 月 13 日開催予定の支部運営委員会への報告事項、10 月 27 日開催予定の評議会報告事項、11 月 10 日、11 日で開催される Geo-Kanto2011 での DS におけるレジメの報告を行った。

6) その他

次回：12 月 22 日(木) 16:30～18:00 地盤工学会 3 階中会議室

以上